



## 第62回中学校 卒業証書授与式が 大アリーナで開催



中高完全一貫体制になって初めての中学卒業式が、3月18日（水）に大アリーナで行われました。

3年前、新校舎の完成と同時に7クラス体制が始まった中学校生活も順調に3年間が経過しました。今春から高校募集はなく、ほぼ全員が同じメンバーで高等学校に進学することになります。そのため、環境の変化は従来ほど多くはあ

りませんが、9年間の義務教育を終える区切りの意味もあり、今までの中学卒業式と同様、厳粛に行われました。

中学校の3年間は人生の中でも最も変化の著しい時期でもあります。1、2年生としては2月に「フエアウェルコンサート」という形で実質的な3年生を送る会を行っていることもあって在校生からの送辞はなくなりましたが、3年生は「卒業生のことば」として、中学校生活の中で自分たちが成長したことあわせてこれから始まる高校生活に向けての決意を述べ、一人ひとりが3年間を振り返って決意を新たにすよい機会になったようです。それそれが高等学校においても充実した学校生活を送り、さらに成長していつてほしいと願っています。

## 中高完全一貫初年度生 最初の 第63回高等学校入学式



4月7日（火）、桜の花が見頃になり、天も祝うかのような淑徳晴れの中、新入生281人が淑徳坂を元気に登って来ました。

今年度から高校受験をなくし新入生全員が淑徳中学の卒業生ということもあり、会場の記念会堂は開式前から元気な声飛び交っていました。入学式は淑徳生らしく厳粛に行われました。

中高一貫生の初めての高校入学式ということで式は例年と異なり簡素化して行われまし

た。学校長の式辞に始まり理事長の祝辞などに新入生は真剣に耳を傾けていました。担任紹介では、初めての担任や中学からの持ち上りの担任もいて生徒は一喜一憂し喚声をあげていました。

式の後、「思索と対話の春合宿」の説明が学年主任からありました。これは一貫生を迎えるにあたり新しく企画された今年度からの行事で、4月15～17日に荘川で行われます。合宿ということで楽しみにしている生徒が多いようでした。その後、ご父母に高校と中学の違いや高校生活についての話が教務部と生活指導部からありました。生徒は教室で担任からの話がありご父母と一緒に帰宅しました。

## ジェンダー・女性学研究所 編纂の本が 日本図書協会選定図書に



ジェンダー・女性学研究所が編纂した「ジェンダーの交差点―横断研究の試み」が出版されました。



本学のジェンダー・女性学研究所は1995年に開所し、教育理念の中核に男女平等を実現するジェンダー教育の重要な役割を果たしてきました。本書は、2005年にジェンダー研究に関心を持つ専任教員である石田好江現代社会学部教授、小川明子現代社会学

部准教授、平林美都子文学部教授、福本明子ビジネス学部准教授、藤井麻湖現代社会学部准教授、若松孝司文化創造学部准教授と永田祐医療福祉学部講師（現職は同志社大学社会学部講師）の7人によって企画が始まり、それぞれの教育研究の専門分野である社会学、政治学、メディア学、コミュニケーション学、英文学、文化人類学などにジェンダー視点で横断している研究成果を論文としてまとめた学際的な研究書であり、このたび（社）日本図書協会の選定図書にも選ばれました。

なお、図書の出版社名、価格などは、13ページの著書紹介欄においても紹介していますのでご覧ください。

## 図書館が レファレンスサービスの 図書を出版



図書館が編さんし、司書の鹿島みづきさんが執筆して、小嶋智美さん、山口純代さん、山田稔さんが執筆と編集に協力した図書「レファレンスサービスのための主題・主題分析・統制語彙」が出版されました。

現在の図書館は、情報の担い

の手としてインターネットといかに共存し、いかにその独自性を保ち、いかにそのサービスを展開していくべきかが切実な課題となっております。本書では、特に蔵書とともに蓄積されるべきレファレンスサービスの専門知識を、図書館員相互に効果的に共用・活用し、将来につないでいくための方策について、体系的かつ具体的に提案しています。

さらに、日本の図書館におけるバスファインダー研究のさきがけとなり、2005年度の私立大学図書館協会賞を受賞した「バスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践―図書館員のための主題検索ツール作成ガイド」（本学図書館編）も、このたび電子ブックとして再発売されました。これ



は世界最大の図書館サービス組織であるOCLCのネットワーク（代理店 紀伊國屋書店）に収録されたので、海外でも購入することができます。

なお、図書の出版社名、価格などは、13ページの著書紹介欄でも紹介していますのでご覧ください。



学長表彰



神谷奨励賞



学生部長表彰

3月12日(木)、長久手キャンパスにおいて平成20年度の学長表彰、学生部長表彰、神谷奨励賞の表彰式、授賞式を行いました。

## 学長表彰、学生部長表彰、神谷奨励賞の表彰式、授賞式を挙



学長表彰は、毎年優れた学業成績、研究成果、課外活動等において顕著な成績をおさめた個人や団体を対象とするもので、20年度は個人2人を表彰。学生部長表彰は、中部、関西、東海地区大会等で上位入賞の成績をおさめたもの、社会奉仕活動等で顕著な活動を行ったものが対象で、20年度は個人12人と4団体を表彰しました。神谷奨励賞は、各学科専攻に在籍する3年生を対象に、優れた学習研究の成果をあげ、学部長の推薦を受けた学生に贈る賞で、14人の学生に授与しました。それぞれの分野で努力が認められた受賞者の皆さんの、ますますの活躍を期待しています。

### 学長表彰

※学年は20年度のものです

特に優れた学業成績をあげたもの	現代社会学部現代社会学科4年 木造由貴さん	学生対象の国際的照明デザインコンペ「第21回コイズミ国際学生照明デザインコンペ」佳作入選。左ページ記事参照
	コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科3年 前谷直希さん	第26回中国語スピーチコンテスト全国大会の大学生スピーチ部で第2位、中国教育部賞受賞。左ページ記事参照

### 学生部長表彰

中部、関西、東海地区大会で上位入賞か同等以上の成績をおさめたもの	文学部国文学科4年 北村幸奈さん	<陸上部>東海学生陸上競技春季大会5000m2位。東海学生陸上競技対校選手権大会(東海インカレ)5000m5位。東海学生陸上競技秋季大会1500m6位
	現代社会学部現代社会学科4年 澤田侑子さん	<社交ダンス部>第40回東西対抗学生競技ダンス選手権大会「パソ」の部1位
	コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科4年 平林和樹さん コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科4年 荒竹拓さん	<バドミントン部>第56回東海学生バドミントン選手権大会ダブルスベスト8位
	コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科3年 曾根真季さん 現代社会学部現代社会学科3年 永野真子さん	<バドミントン部>第57回中部大学、第56回中部学生バドミントン選手権大会ダブルスベスト8。第48回西日本学生バドミントン選手権大会ダブルスベスト32。第59回秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本バドミントン選手権大会ダブルスに出場
	現代社会学部現代社会学科3年 植現代美さん	<なぎなた部>第47回愛知県なぎなた選手権大会大学生・一般個人の部試合競技3位。第15回愛知県武道館なぎなた大会大学生・一般の部試合競技3位。演技競技3位。第63回国民体育大会(おおいと国体)に愛知県代表として出場
	文学部図書館情報学科2年 旭脩平さん	<なぎなた部>第42回東日本学生なぎなた大会3位
	医療福祉学部医療貢献学科視覚科学専攻2年 山村彩さん	<なぎなた部>第41回東日本学生なぎなた大会段外の部優勝。第42回同大会段外の部2位。全日本なぎなた選手権大会団体戦ベスト8
	コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科2年 石原瑠衣さん	<フィギュアスケート部>中部フィギュアスケート選手権大会・選手権女子6位。第2回西日本学生フィギュアスケート選手権大会(西日本インカレ)Aクラス女子11位(全日本インカレ出場)
	現代社会学部現代社会学科2年 深谷美海さん	第4回世界バトントリング連合インターナショナルカップ大会(昨年8月、アイルランド)SENIOR2BATONレベルA9位
	チアリーディング部	中部チアリーディング選手権大会2位、ジャパンカップ2008決勝20位、全日本学生チアリーディング選手権決勝26位
バドミントン部	東海大学バドミントン選手権大会女子団体1部3位(加盟大学数17、リーグ数4)。男子団体2部準優勝(加盟大学数26、リーグ数5)	
その他表彰に値する顕著な活動を行ったもの	現代社会学部現代社会学科3年 杉藤由佳さん	日進展(日進市)に出品した絵画が最高賞の市長賞を受賞。瀬戸市美術展に出品した絵画が洋画部門で最高賞の大賞受賞
	ラグビーフットボール部	東海学生Aリーグで昨年同様2勝し、1部リーグに残留
	演劇研究会 月とカニ	名古屋の学生演劇フェスティバル(昨年4月)で最も優れた団体とされ、東京の学生演劇フェスティバルに招待されて公演。p14参照

### 神谷奨励賞

文学部	<国文学科>猪飼大二さん <英文学科>安藤静さん <図書館情報学科>花井史恵さん
現代社会学部現代社会学科	<フィールドスタディコース>北原佳奈さん <メディアプロデュースコース>佐藤宮聖子さん <都市環境デザインコース>河村文音さん
コミュニケーション学部	<コミュニケーション心理学科>谷枝莉子さん <言語コミュニケーション学科>丸亀直斗さん
ビジネス学部	<ビジネス学科>萱野厚子さん
文化創造学部文化創造学科	<表現文化専攻>神野真衣さん <多元文化専攻>伊藤愛さん
医療福祉学部	<福祉貢献学科>坂野雅世さん <医療貢献学科言語聴覚学専攻>神野恵里さん <医療貢献学科視覚科学専攻>長瀬京子さん



中国語スピーチ大会の表彰式

## コミュニケーション学部の 前谷直希さんが中国語 スピーチコンテスト第2位の快挙



学長表彰を受ける前谷さん

コミュニケーション学部言語  
コミュニケーション学科4年の  
前谷直希さんが昨年11月、「第  
26回中国語スピーチコンテ  
スト」(愛知県日本中国友好協  
会主催)の大学生スピーチ部で第  
1位、中国駐名古屋総領事館  
賞を受賞。さらにテープ審査を  
通過して全国大会に進み、全  
19会場395人の出場者の中  
から大学生の部2位、中国教  
育部賞(日本の文部科学省に相  
当)受賞の快挙を成し遂げま  
した。

中国への長期留学経験のな  
い学生が、このような素晴らしい  
成績を収めたことは本学で  
は前例がなく、大変名誉なこと  
です。  
前谷さんが中国語に真剣に  
取り組むようになったきっかけ  
は、1年生の中国語の授業で  
ネイティブの先生と話をした  
時に新鮮な感動を覚えたこと  
それから仲間と一緒に練習し  
たり、先生方や留学生に発音  
を見てもらったりするうちに、  
中国語がみるみる上達したそ  
うです。2年生の夏に中国・天  
津で短期研修を経験したのち、  
中国語スピーチコンテストに臨  
みました。  
「今後は中国語の運用能力テ  
ストであるHSK試験で最上  
級レベルに挑戦し、将来は中国  
語を使った仕事に就きたい」と  
抱負を語ってくれました。



入選した作品「ハーネス・オブ・ハート」



学長表彰を受ける木造さん



## 現代社会学部の 木造由貴さんが 世界的な照明デザイン コンペに入選

この春、現代社会学部現代  
社会学科都市環境デザイン  
コースを卒業した木造由貴さ  
んが昨年、学生を対象とした  
「コイズミ国際学生照明デザ  
インコンペ」で佳作に入選し  
ました。同コンペは照明デザ  
インの登竜門として世界から  
高く評価されており、21回を

迎えた今回は世界16か国から  
1443人が応募。環境問題、  
食料問題、資源枯渇などを背  
景とした「最小限の素材で最  
大限のあかりを」のテーマで作  
品を制作しました。  
木造さんの入選作「ハーネ  
ス・オブ・ハート」は体温をエネ  
ルギーにしてライトを灯す、超  
高輝度LEDと体温発電素子  
を用いた先進的な作品。  
「身体に着けるだけで明かり  
が点けば、夜道や災害時など  
使え、電気の整備が不十分な国  
でも生かすことができるので  
はないかと考えました。環境問  
題など、授業で学んだことが作  
品の誕生につながりました」と  
木造さん。世界的なコンペに本  
学の学生が入賞したことは初  
めてで、後続の学生の励みとな  
ることでしょう。

## 島田修三教授が 山本健吉文学賞を受賞



文化創造学部の島田修三教  
授の第五歌集『東洋の秋』(な  
がらみ書房刊)が第九回山本  
健吉文学賞(山本健吉文学賞  
実行委員会、文学の森主催)を  
受賞(短歌部門)し、昨年の第  
六回前川佐美雄賞とのダブル  
受賞となりました。  
山本健吉はT.S.エリオット  
などの英文学と折口信夫など  
の国文学の深い素養を背景と  
する文芸評論家として活躍し  
ましたが、特に詩歌俳句の研究

や評論に高い業績を残しまし  
た。山本健吉の業績を記念し、  
その名にふさわしい優れた詩  
歌句集や評論に対して贈られ  
る文学賞です。  
『東洋の秋』の概略について  
はすでに前川佐美雄賞受賞の  
前号でご紹介しました。芥川  
龍之介に同名の短編小説があ  
り、歌集のタイトルはその芥川  
作品を意識したそうです。晩  
秋の日比谷公園を散歩してい  
た芥川が唐代の超俗の僧侶寒  
山拾得の飄然たる姿を見かけ  
るという幻想的な話です。  
島田先生はまだ日本に懐か  
しい東洋の面影が残っていた  
時代を歌集の随所で歌ってい  
ますが、そこには確かに「東洋  
の秋」の静かで懐かしい味わ  
いがかがえます。先生のますま  
すのご健筆をお祈りします。

## 二宮昭教授が 日本リハビリテーション 心理学会学会賞を受賞



文学部(3月までコミュニ  
ケーション学部の二宮昭教授  
が、平成20年12月に熊本で開  
催された日本リハビリテーショ  
ン心理学会において、永年にわ  
たる同学会の発展への多大な  
貢献により、平成20年度の同学  
会学会賞を受賞されました。

「学生の頃からこの学会を中心  
に行われている動作法という  
発達援助法で、障がい者と呼ば  
れる方々と40年近くかかわっ  
てきたので、『永年に渡る』と  
いうことは確かに当たっていま  
す。しかし、『貢献』というのは  
とくに大したことは何もして  
いないので、少し面映ゆい気が  
します。強いて挙げれば、20年  
以上も市がその事業として動  
作法のキャンパや月例訓練会  
を実施するという、全国でも珍

しい春日井市の活動にずっと  
携わるなど、地域に密着した形  
で地道にやってきましたよなこ  
とを認めていただいたのでは  
ないかと思えます」と二宮先生。  
さらに、「嬉しいことに、最  
近では本学の大学院や学部の  
学生がキャンパや月例訓練会  
に多く参加してくれるように  
なっています。この受賞を機に  
動作法の実践・研究に「層積み  
たいと思います」と今後の抱負  
を話していただきました。

# CAMPUS キャンパス+トピックス TOPICS



## 現代社会学部 都市環境デザインコース 2009卒業研究展

学生が各々設定した具体的なテーマについて、一年をかけて、指導教員と議論を重ねながら研究成果として仕上げるのが「卒業研究」です。都市環境デザインコースでは、学内発表後、優秀な研究を選抜して、学外の来訪者にもご批評頂ける機会、卒業研究展を毎年実施しています。

今年度は2月10日から14日までの5日間、名古屋市民ギャラリー栄にて、①建築・インテリア・ランドスケープ計画などの設計案、②椅子・照明などの実制作品、③学校オフィス・交通施設など様々な環境に焦点を当てた研究論文、計34点の研究成果を展示発表しました。現代社会に対する問題の追



求やより快適な生活のための提案を、目に見える形で人に伝えるにはどのような工夫が必要なのか、一人ひとりが表現し、それに対して多数のリアクションを受ける貴重な機会となりました。さらに、意識の高



い学生は、学会や設計競技会へ作品を応募し、発表の舞台を全国へ移していきます。後に続く在校生にも、一つの研究に情熱を注ぐ姿が焼き付いたことと思います。

こうした経験は一つの通過



点に過ぎませんが、大学卒業後は各々の活躍の場で、周囲をリードする人材として自身自身を高める努力をしつづけて欲しいと願っています。

